

【成人例の左室緻密化障害の暫定診断基準】

左室緻密化障害 (LVNC; left ventricular non-compaction) の診断基準として統一されたものではありませんが、一般的には断層心エコー図法または心臓 MRI 検査にて左室内面の肉柱形成と深い間隙を証明することで診断されています¹⁾。心エコー図法では Jenni²⁾の基準が最も引用されていますが、他に Chin³⁾が提唱する診断基準などもあります。本調査では Jenni あるいは Chin の診断基準を満たしていれば、LVNC と診断いたします。

Jenni の診断基準 (図 A)

- 1) 左室心筋が緻密化層(C)と非緻密化層(NC)の2層からなる。
- 2) 収縮末期に NC が C の2倍以上 ($NC/C > 2$)。
- 3) カラー Doppler 法で、肉柱の間隙に血流が観察される。
- 4) 他の心臓構造異常を伴わない。

Chin の診断基準 (図 B)

- 1) 左室心尖部において、肉柱を除いた壁厚(緻密化層)(X)と肉柱を含めた壁厚(非緻密化層+緻密化層)(Y)を求める。
- 2) 拡張末期に $X/Y \leq 0.5$ 。

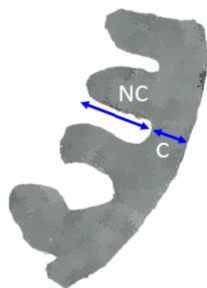


図 A: Jenni の基準 (収縮末期)



図 B: Chin の基準 (拡張末期)

参考文献

- 1) Ikeda U, et al. J Cardiol 2015; 65: 91-97.
- 2) Jenni R, et al. Heart 2001; 86: 666-671.
- 3) Chin TK, et al. Circulation 1990; 82: 507-513